

カウ・ウール

左手なまゆき

[illegible]



登城晴花す
み
し
ろ
は
る
か

生ぬるい空白の中で、何をかを想った。
 それは深く、浅く、時には薄暗い想を
 てるかのよう、に、
 ありそう、で、
 それでいて無知蒙昧な赤茶けた天空儀。
 内面の興行きには、決して届かず、
 あくまでも皮想的な、
 超自然的な断想。

僕は腐った小魚——それはどす黒くぬる
 ぬるとした、みどく目玉のとび出した深
 ぐらいた。——をにぎりしめて、立ちすく
 でいる。をにぎりしめて、立ちすく
 恥じ入る。悔い、苦笑いをしてみるだけ
 だ。性悪の悪い。苦笑いをしてみるだけ
 うつろな回想。内側に穴が空き、
 ぼんやりと、内側に穴が空き、
 それが腐敗して、脊け出すだろう。
 るれから、目をさます。
 僕はやつと目をさます。
 青々充血した血管がほと走り、
 そろそろ、口から膿の匂いのする吐息をし
 ばがら、口から膿の匂いのする吐息をし
 殺間に、死を疑問符に目をやる。

て　　ゝ　　〃　　た　　〃
絶つ魔だ：　　そも
付け術まが　　うっ
にて師れム　　言と
テそはノテ　　強
レの：ー　　て力
ビ上変イプ　　魔な
がになケに　　術お
つ　　おニ似　　師ふ
か故ふエて　　はだ
な障だにる　　袋を
い中をしけ　　かは
呪　　スちど　　らろ
文　　ツイま…　　う
な　　てツラ”　　に”
ん書千ぞ　　か
だい　　に”　　出
　　たは　　し

・生田を馬蚤がせた了事件⑤

十二指腸出產事件

と緊と午
迫追前
したいたる表情今叶救急車を呼びに苦
行んて叶さんと云え「虫歯とけけた
んはして瞞ったとあるて振けた
齒を見せ笑う人であるておの叶た
さんか痛みに耐えかねて転げ回つ
たと云うのだどれ程のものな想
像もつかない駆つけかけた救急車
には明大出身の人に乗って我慢して
自令で歩いて行けばもう陽気に笑
つた医者の話ではもう一ツ時
間遅か？たら死んだから叶さんの
タシカで運ばれなかりや二
指腸潰瘍猫のたりヤ二
指腸潰瘍切取り取った二
は見事に穴をあけていた二
見た染沢さんの感想

焼肉定食：感想

番外編

85

祭壇の回りで確たしかびはねる、小鬼ども。
 路辺にはまだ肉塊にくくわいがうごめいてゐる。
 容貌ようぼう魁偉けいゐな天使の像ぞうが、こかで見たことがあ
 る。これにしようしてこにこんな像が
 あるのだらう――
 血管が縮み上がり、
 ひどく物憂ものうれげな、優雅な風勢ふうせいを見せてい
 る。その中を、夜がさまよい、首切り包丁が
 輪をえがいて舞いまわる。
 何という饗宴きやうえん。
 おおよる役に立たない書籍しよきが、くずれ落
 ち、千切れとんだ。
 没落ぼつらくは影の立役者たてやくしや。
 だから愛想あいしやうがよい。

荒癡わうていした文明。
 しかすぎない――
 風化ふうかした正義。
 彷徨ほうかうする権利けんりすら誰にも無い。
 浮遊ういうする骨片こつぺんを時々私わたしいのける。
 早々と――生まれれた時すむに――

僕は死刑宣告を受けたという。僕も死ななければならぬ。偶然に向うからやってくる。僕が咳を一つすると、鼻く、それを聴いて「愛情」が聳く、お前はお前に妄想なぞ一つもない。お前はまことに正気だ――

狂気の誤り？

まあどうもよい。

とにかく僕は快癒している。だから気がだるい幽霊から、連々と続く条鉤虫がどろどろと出て来る。信じることにしよう。の言う事は素直に信じること

最も毛ぎらいしてゐる何かがある。ベッタリと背中にくっついてゐるおぞましき時に似た感情が、気の泡のように、ゆっくり時々汚泥の中へ来てゐる。ゆっくりと浮かび上がつて来る。

ほら、又一つ見つかつた。発狂手前の錯乱者が。

まごだつた。なんどと恐るべき事実であ
ろうか。人類の祖が宇宙人であつたとは。
しかも、それだけの種族にはその成り立
ちに大きな違いがあつたとは……。これ
は絶対に公表するべき事ではない。調査
員達は、この事実を闇に葬るべきである
という結論に達した。もし、これが表沙
汰にぞとなつたら、再び戦争が起るの
はまちがいない。

コンピュータに大惨事以後の記録をす
べて消去するよう命じた。これならばつ
じつ々が合うだろう。大惨事以後、連絡
が断切れた事にすればいいのだから。
ムーの人々がどこから来たのか、問いた
だすと、今、我々がシリウスと呼ん
でいる星系から来た、と答えた。

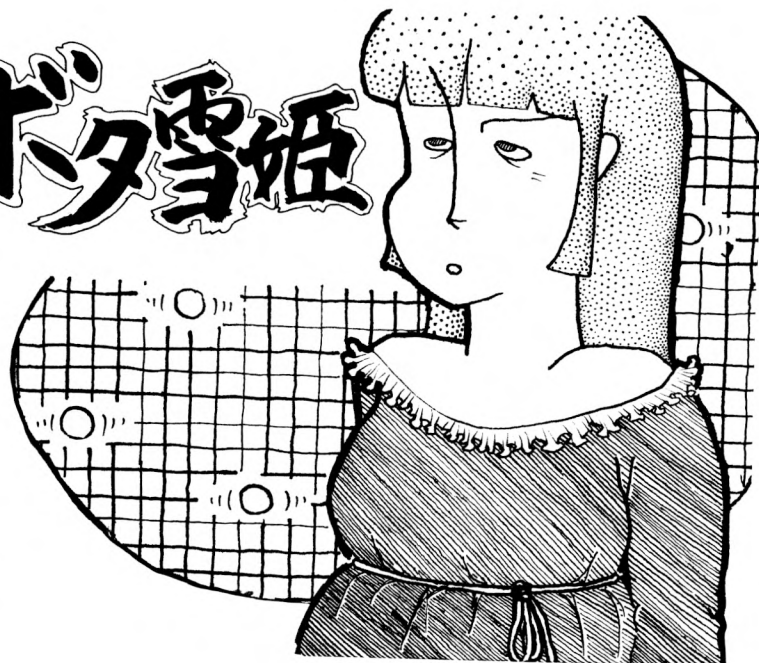
後日、テラへ帰つて来た調査員達は首
脳部に報告した。そして、秘密は保持す
べき、という決定により、パトリール隊に

命じて、調査員達を中心に、すべ
 一の解明にと取り組んだ。
 終了一年ほどして、宇宙船のコンピ
 による力が大きい。コンピュータに教
 うれた、と言つてよいだろう。
 特にエンジンはすばらしいかつた。現
 地球の技術ではとて作れないほどの
 新技術のかたまりだつた。このエンジ
 は、光速運転が可能であり、別に機器を
 付け加えれば、ワームホール・アル
 付けた。このエンジンは、ハイパー・アル
 バと名付けられた。アルバとは、発見さ
 れた宇宙船の名前から取つたのである。
 パトリール隊は、水星にエンジンの実
 験所を作つた。関係した技術者は総動員
 され、新しいエンジン、というこ
 て、改良型も出来、試運転も大成功に終
 りつた。ワームよりニアみたいしたもの
 だつた。冥王星まで一時間で行く事が出
 来る、というすばらしい事実である。
 実験も終わりが残つた。引き上げ、後
 は警備員だけが静かな暗い研究
 室、そこにどこから嗅ぎ付けたのか、一

89

ボク雪姫

阿闍梨



昔々ある国に、たいそう太ったお姫様がおりました。名前をばた雪姫といい、後に有名になった。白雪姫の腹ちがいの姉にあたる人でした。妹は早々とお嫁に行つて、幸せに暮らしてゐるといふのに、5つも年上の姉の方には今だに縁談のひともないのです。

まったく妹の白雪ときたら、妾の子のくせに姉の私をさしおいてさうさとお嫁に行くなんで……それというのも、あの2番目の妾がバカだったせいだわ。毒リンゴ事件の時に、毒の量をケチつたからよ。ほんとのにあの人はケチな人だった。

姫は鏡に向かつてぼたもちのような顔におしろいをはたきながら、そうつぶやいていました。

見てよ、この美しさ。この美しい顔のどきが白雪より劣つてゐるといふの。

そう言つて姫は、そのアヨアヨした巨体を揺り起こすと、

っさて、お父様の御きかんうかがいにで、行くか。めんどくさいけど。

と、赤色でやたらとケバケバした趣味の悪いドレスを身にまとうと、ゆつくりと部屋を出て行きました。

この星は基地が人を乗せて離れると同時に、防衛軍のメイコンビュータから指令がこないかぎり自分で動くことになつてゐる。また、戦艦は必要に応じて射出されるが、これはサスコンビュータが動かし、時には人を乗せる事もある。要塞の中には、必要に應じた数多くのロボットがいる。常時には大多数が眠り、少数のロボットが掃除や整備をしてゐる。非常時には、人間の代わりをする。ロボットは自分で考え、自分で行動することになるのだ。

これらの秘密は赴任将校などに知らされず、ただ防衛軍の首脳部の責任者達にだけである。

ハイパー・アルバエンジン改良型のうち、ワイパー・アルバエンジン型は、全基地の準備が終つてから、その存在が一般社会に知らされた。それにより、太陽系の端から端まで十日で行けるようになった。

この時、水星・小惑星は通過許可区域以外に進入禁止、海王星の軌道より外に出るのを禁止となつた。そこは防衛軍の

管轄内となり、軍備が進められている。いつ来るかわからない敵のために……。

私は防衛軍の首脳陣の一人となつて四十年を過ごし、退官した。今どき外宇宙からの訪問者はなく、皆平和に暮らしている。願わくば、この平和がいつまで続くように……。

私の子らも防衛軍に入つたし、孫には赤ん坊が出来ようとしている。この子も生まれながらの防衛軍人となるのだ。

私はその子の名前を義明とつけた。

私はこの手記を後の世のために書き残した。これは、絶対に公表すべき物ではなく、出来るなら永久に防衛軍首脳部の極秘ボックスの中に納められるべきである。

元防衛軍
元帥
飯村
和夫

